

シュタイナー学園2022年度学校評価

今年度学校評価における教育目標は、昨年度までの全体での統一的な目標から、全体の抽象的な目標と個々の教員が自らの責任を持つ教科やクラスへの目標、という形へシフトさせました。その意味では、全体的な統一目標に比較するとバラバラ感が否めず、まとまりとしての成果が目につみにくいかもしれませんが、個々の教員の個性が出しやすく、ひとり一人の成長と自覚に繋がるという意味では、今後の学園の発展を考えると必要なプロセスを踏んだ学校評価ではないかと思えます。

WBCやサッカーをみても、チームの力は1人1人の個性と役割、そして個人の持つ力から生じます。シュタイナーによる教育の基本思想は、学校の成長を目的とするだけではなく、生徒や教員、保護者個人が人間としていかに立つかが、基本にあります。

また、この教育における点数評価ではない評価方法を、「学校評価」にも活かせればという以前の学識経験者からの提案も前回頂き、今後は皆さんからのフィードバックも言葉によるものに重きを置いていきたいと考えています。

2022年度教育目標

<学園共通目標>

創造的な活動や実体験によって培われた感覚を通して真理を求め、自ら考え、世界と生き生きとした関係を築く。一人ひとりを見守りながら、手足を良く働かせ、感覚や意志を育てる環境を用意する。

<初等部・中等部目標>

真・善・美を授業にもたらし、心を育てる。それらを思考の土台として、自信を持って世界に向かっていけるように働きかける。

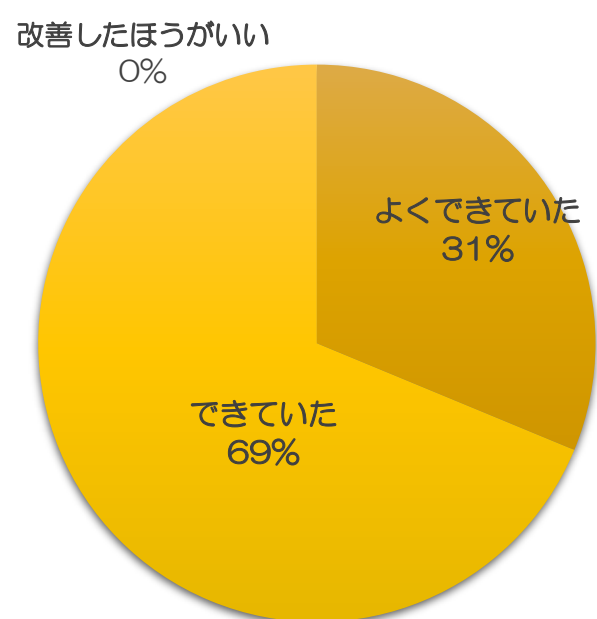
<高等部目標>

自分の役目を認識し、責任を持って行動する。同時に周囲にも目を向け、自分が出来ることを積極的に探し、他者と共働していく力を養う。

2022年度のシュタイナー学園評議員による学校評価の結果です。

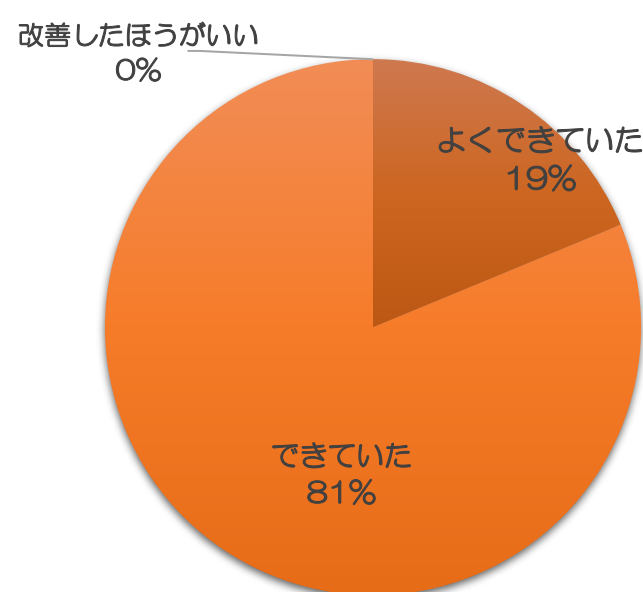
いただいたご意見の一部を抜粋して記載しています。

1 学園共通目標について



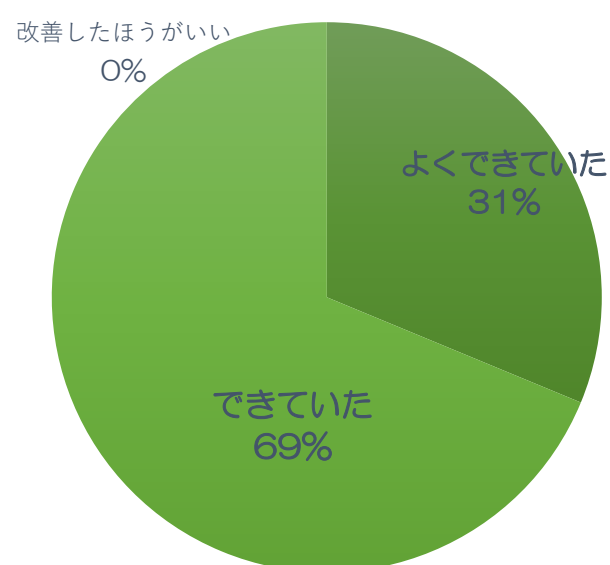
- 理想とはいかないが、一歩一歩進んでいると思います。
- コロナの制約があるなかで、完全ではないにしろ目標にかなった活動がコロナ禍においても可能な限り努力してなされていると考えられる。
- 3月に卒業した12年生の一人一人を見ていて、感じた。
- 先生方、本当によくやっていたらしゃるな〜と、感心しております。
- 子ども達がそこに向かえるように取り組んでくださっていたと感じています。又そうした力を身につけるために、子ども達が行ったり来たりすることを根気強く見守り、励ましてくださっていることを非常に感じています。
- 12年生の演劇、卒プロ、オイリュトミー公演を観て、問いをもち、自ら考え、世界とつながる芯のある人間が育っていると感じたから。
- コロナ禍においても可能な限り努力していた。

2 初等部・中等部目標について



- コロナの制約があるなかで、完全ではないにしろ目標にかなった活動がなされていると考えられるから。
- 目標に関する具象な点を挙げることはできませんが、定期的に名倉を訪れている中で、子ども達を通し、先生方のご尽力を非常に感じています。個々の育ちや課題等あるかとは思いますが、一生という線を、どういう点が出来ていくかを先生方はきちんと見据えながら子どもたちと接していると感じています。
- 子どもたちの様子を先生方含めてしっかりと見ていると思います。
- 校外学習から帰ってきた児童生徒の目が非常に輝いていた。
- 教員同士の連携により一人ひとりの児童に対する共通認識をもって働きかけている点。
- それぞれのクラスの発達段階に応じて、必要な働きかけをし、子どもたちが健全な成長を遂げていることを、学期祭の発表から感じ取れたから。

3 高等部目標について



- 卒業した12年生の様子、オイリュトミー、演劇、研究プロジェクトにおける発表の内容を見て、よくできていたと思いましたが、規則などを教員側で決めて押しつけないで生徒会にいろいろと決めさせて、生徒の自主的な管理を任せると良いと思います。
 - 縦割りの仕組みや生徒主体の活動への自由度を高めていることは、素晴らしいと感じる。さらに、世界や社会に目を向けた責任感や、他者との協働を促進するための、意識の持ち方や他者との関わり方への方向性を示す、もしくは生徒たちが経験からの学びを自ら言語化することを意図的に導けると良いのではないかと。
 - 個々人の育ちはあるかとは思いますが、初中等部での学びを具体的・客観視しながらどのように形作っていくのかを、とてもサポートしてくださっているのではないかと思います。
- 課題や実習なども、“こなす”ための設定ではないカリキュラムと感じています。そのため、各人の学びの観点が集まると、大きな視点へと変わり、他者の目を借りて知ったことが、良い意味で共有されていると思います。
 - 地域の方と協力してイベントを開催することができていた。
 - 12年生プロジェクトの発表や劇を通じて成長している様子を見ることが出来たから。
 - 学園祭の様子や、高等部の保護者から聴くこどもの様子、また生徒と話をする機会に、世界に目を向けて自発的に社会に関わろうとする力を感じたから。

4 各クラス・専科について

- ・4年生 バンブーダンスや大縄跳びなどで、しっかり足を地におろし、出来ることの喜びや生きる力を育てていたと思う。

- ・5年生 3学期の学期祭を拝見して、子どもたちの学びへの集中力や向かい方をとても感じました。そして同時に担任の先生がどれほどご尽力をされてきたかをそこから感じました。

- ・6年生 こどもたちの自主性を尊重して活動を見守るクラス運営がされていたと感じる。規律と自由のバランスが良かったと思う。

- ・8年生 思春期で、子ども達の中でも、大小さまざまな齟齬がお互いの理解の掛け違いに発展する時とは思いますが、学校内で接する際、基本的な素直さを感じる事が多かったです。最後の劇での姿は、何かをやり遂げるために自分たちがどうするかを定める事ができたのだなと感じました。先生と子ども達がこれまで厳しい道もしっかり歩いてこられたことを感じました。

- ・11年生 福祉実習では、施設利用者を単に「助けを必要としている人」として捉えるに留まらず、同じ社会の構成員であり、社会側がバリアになる可能性(医学モデル:社会モデル)等も伝えられると理解が深まるのではないかなと思う。また、実習を行う際は事前学習を丁寧に行なう必要がある。現在のカリキュラムの細かい部分はわからないが、学びを深めるためにも施設に迷惑とならないためにも授業として数時間確保してほしい。

- ・工芸 一つ一つの活動に丁寧に向き合っていて、頭と心と手を動かし、その作品にはそれぞれの子どもたちの内面が表れていたから。

- ・音楽 学期祭や、クラスの発表などから感じた。特に、調和的に歌い、奏でる様子が素晴らしい。

- ・国語 古典から現代までの作品を通し、人間がどのような時代背景の中で生きてきたのか？実は現代の自分たちと同じように“時代”というもののなかで生きていたことを伝えてくださったと感じます。生活様式や時代というものがそこに生きる人々にどのように影響し、又それをどう感じていたのかを踏まえ、今の自分を見る視点を与えてくださったと感じています。文章を書く事がもう少しレッスンできると良いかなと思っています。

- ・手の仕事 作品を作るということもさることながら、自分が思い描く最終形へ、どのように向き合い到達するのか？ということへ重点が置かれていることが非常に見えました。自分が生み出す物を通し、伝え、それを社会へ役立てるための手仕事の在り方を伝えるシュタイナー教育のすばらしさをあらためて感じました。技巧ではなく、その人の内側をどのように通ってきたか？どのようなプロセスを踏まえ生まれたものなのか？子ども達がそこにしっかり向かえるようにサポートして下さっていることもとても感じました。

- ・数学 数学という教科が、日常の中にあふれている物なんだよということをまず伝えてくださっていることを感じました。そして実は、数学が共通言語となるのだということも教えてくださっていると思いました。その言語をうまく使いこなせるか個人個人の差はありながらも、伝えることの大切さや大事さをきちんと理解して授業に向かっていることを感じます。

- ・美術 美術史では、単なる知識にとどまらず、生徒自らが観察し、各時代のテーマを感じ取り、言語化するプロセスを導いてくださったため。